

発行所
日刊建設工業新聞社
東京都港区東新橋2-2-10
(郵便番号 105-0021)
電話(大代表)03(3433)7151
FAX 03(3433)1042
振替口座 00140-2-91051
©日刊建設工業新聞 2000

日刊建設工業新聞

THE NIKKAN KENSETSU-KOGYO SHIMBUN

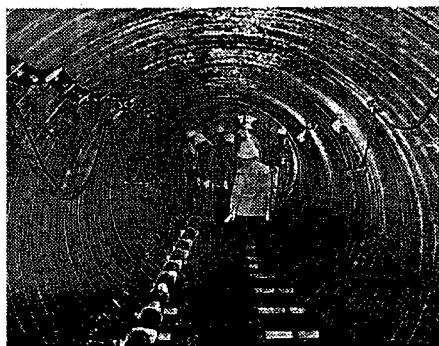
第15178号 (昭和3年7月19日第3種郵便物認可・昭和36年12月8日国鉄特別扱東局承認298号)

長距離急曲線^{トンネル}を推進

アルティミット工法協会が見学会

切り羽にビームカッター

超長距離急曲線トンネルの推進システム「アルティミット工法」の見学会が19、



20の両日、川崎市の雨水貯留管の建設現場で行われている。同工法の理解促進と普及に向け、アルティミット工法協会が主催する見学会で、2日間で発注者やコンサルタント、協会会員企業などから約2000人が見学会に訪れる予定だ。

同工法は、従来工法で困難だった長距離、急曲線トンネルの推進を、面抵抗を低減させた点の特長だ。急曲線推進を可能とするため、推進管の端面には発泡ポリエチレンの推進伝達材を設置し、推進管の追随性を確保しながら管端面の破損を防止する工夫も凝らしている。

見学会が行われているのは、川崎市発注の「沢川雨水貯留管工事」。都市型水

トンネルの推進を高精度に可能にしたセミシールド工法。掘進機の切り羽にビームカッターを装着した「ダブルカット方式」を採用し、強力な攪拌作用に加え、添加剤や泥水を注入して土砂の流動化を促進、面抵抗を低減させた点が特長だ。急曲線推進を可能とするため、推進管の端面には発泡ポリエチレンの推進伝達材を設置し、推進管の追随性を確保しながら管端面の破損を防止する工夫も凝らしている。

浅沼組J.V。
同工事のうち、近接する沢川ポンプ場でくみ上げた下水を貯留管の立坑側部(バジル部)に引き込む流入管掘削に同工法が採用されており、直径2600mmの流入管を延長約78mにわたって掘進する。途中に最小曲線半径40mの急曲線部があり、急曲線部の入り口付近、延長約50m程度までトンネル掘進を終えた。

19日午前の見学会には発注者ら約50人が参加し、トンネルの切り羽付近まで入り、同工法の特性を確認し

た写真。今後、都市部を中心に超長距離急曲線トンネルの必要性が高まると予想されるだけに、見学者は熱心に質問を重ねていた。